

天王山・淀川 歴史と文化 うるおいのあるまち

広報

# おやまざき

# 10

2015(平成27)年

## よーい、ドン!

秋の始まりを感じるさわやかな気候のこの日、大山崎中学校では体育大会が開催されました。生徒らは今年も4色に分かれ、棒引きやリレー、応援合戦などで激闘を繰り広げました。

【9月10日 困 大山崎中学校グラウンドにて】



### 今月の主な内容

- さわやかに、挑んだ夏 P 2
- 秋のおまつりー11月1日は役場周辺へ！ー P 8
- パブリックコメントを実施しています P 10
- あなたの力を『消防団』で生かしませんか P 10
- 回答はお済みでしょうか？ 平成27年国勢調査 P 11
- マイナンバーの「通知カード」が届きます P 11
- 第2回天王山プレミアム商品券を販売します！ P 11

vol.573

<http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp>

天王山に抱かれたグラウンドに打球音がこだましています。京都大会開幕を翌日に控え、一層熱が入ったこの日は、週にわずか2回

すがすがしい印象を残して

〜西乙訓高校〜



左から、大森大暉君、小西徹也君、水守政史君、山下郁馬君(西乙訓高校グラウンドで)

のみ許されたバッティング練習の日。グラウンドでは、野球部のほか、サッカー部やハンドボール部などが所せましと活動しているため、打撃練習は極端に制限されています。

「グラウンドは広くはありませんが、それをハンディと思ったこ

めざせ甲子園、めざせ全国制覇



西乙訓高校  
鳥羽高校

# さあやかに挑んだ夏



全国3906チームが甲子園を目指して戦った第97回全国高等学校野球選手権大会。

大山崎町の高校球児もそれぞれのチームで活躍しました。惜しくも京都大会で敗れたものの、大山崎中学校出身の生徒が多数、レギュラーとして活躍した西乙訓高校の挑戦を紹介します。

また、見事に優勝し甲子園に出場した鳥羽高校では大山崎町の2選手がベンチに入りました。夢の舞台上に立った彼らの声も紹介します。

とはないですし、絶対に言い訳にはしません。工夫で克服できると思っています。」

と、石井努監督。

初戦の相手は、京都を超える高校。昨年準優勝の強豪で、西乙訓高校にとっては、昨夏の大会、さらに今春の府大会で苦杯をなめている因縁の相手です。

「昨年は7点差。春は3点差。少しずつ差は縮まってきています。皆さんは、すばるが勝つと思っています。その方が思い切り挑めるので、逆にやりやすいと思っています。相手に油断や隙が出たらチャンスです。」

練習後の円陣で「いよいよよまらさ。相手がすばるであっても、さらさら負ける気はない。もちろん勝つ」と監督から声をかけられる

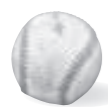
と、選手たちは一層引き締まった表情に。決戦に向けて、緊張感が高まります。

大山崎中学校出身のレギュラー選手は、いずれも3年生の4人。キャッチャーの大森君は、「守備では、打者の構えや足の位置で狙い球を察しています」という頭脳派。剃り込んだ頭に、最後の大会にかける意気込みが伝わってきます。

センターの山下君は、昨夏も主力選手として出場。「本塁打も打て、流れを変えてくれる選手」(石井監督)という強打者です。「2回対戦しているので、常にすばるの投手を意識して練習しています。外のスライダーがあるので、追い込まれる前に勝負したいです。」

グラウンドは広くないが、それを絶対に言い訳にはしない

悔しいけれど、楽しむことはできたので、  
 そういう意味では出し切れませんでした。



が、中盤以降は、徐々に京都すばる高校の打線がつながり始めます。そして、ピンチを迎える場面が多くなりますが、そのつど、大森君が笑顔でマウンドに駆け寄ります。お尻をミットでポンとたたかれたエース末沢君は、ほっとした表情に。何とか猛攻をしのぎ、味方の反撃を待ちます。

すると、負けじと西乙訓高校も、長打などで6回、7回と反撃のチャンスを迎えます。

はるばる応援に駆け付けたクラスメートたちもスタンドから祈るような見つめるなか、高校三年間の集大成、「天王山」の打席に入る大山崎球児たち。打席に立っていない水守君も、三塁コーチボックスから懸命に声をからします。

各選手、渾身の力を込めてのスイングでしたが、あと一歩及ばず、ホームは遠いまま、ゲームセット。一時間44分の熱戦が終了しました。

「出し切れた」

残念な結果でしたが、精一杯強豪に挑んだ球児たちに、スタンドからは「よくがんばった」との声とともに大きな拍手が送られました。

保護者やOB、クラスメートが集まるベンチ裏に、引き揚げてきた選手たちは、悔しさを隠しきれず、皆、言葉少な。「やれる自信があっただけに、悔しい。」「悔しいけれど、楽しむことはできたの



で、そういう意味では出し切れませんでした。」母校のバックネットに掲げられた「Enjoy Baseball」を体現できた満足感からか、しばしの落胆の後、保護者を前にしての記念撮影では笑顔が広がりました。

天王山の山麓で鍛錬してきた球児たちのすがすがしい「天王山」でした。

西乙訓0-7 京都すばる



試合終了後、保護者と記念撮影に納まる選手たち。



遠方から駆けつけたクラスメートも、祈るように応援



「この瞬間にスイッチが入る」という試合前の円陣

ます。

いざ、決戦

台風の影響で3日順延となり、ようやく迎えた初戦、山あいのあやべ球場。両チームの円陣から上がった雄叫びとともに決戦の幕が切って落とされました。

先攻の西乙訓高校。初回、トップバッターの大森君が際どい球を見極めて四球を選びます。

そして一死後に3番山下君が、見事レフト前にはじき返し、先制のチャンス。太鼓の音が響き、応援席は一気に盛り上がります。しかし、惜しくも後続が倒れて初回は無得点。

その裏、エース末沢君が順調な滑り出しで、相手の打線を抑え、と、続く2回、3回の攻撃とともにランナーを出した西乙訓高校。しかし、得点には至らず、序盤の3回までは0対0の緊迫した試合展開に。

流れは両チーム五分五分でした。

ライトの小西君は、山下君とともにクリーンアップを担うチームのムードメーカー。二番手投手も務めます。

投手としては「エースに託しています。」「と言いつつ、投げたい気持ちは? の問いには「ちょっと。」とはにかみませます。マウンドでは、キャッチャーのサインに首を振ることはないそうで、大森君に全幅の信頼を置いています。

セカンドの水守君は、「なんでもできる器用な選手」(石井監督)

で、俊足巧打でチームを引っ張ります。「相手がすばるであつても、もちろん勝ちます。」と、頼もしいコメントで、ひとときわ気合いが入っていました。しかし、アクシデントが。初戦を目前に控えた練習で、右手指を骨折、京都大会での出場は困難に。本来ならノックを受けて駆け回っているはずのグラウンドを、水をまいて整えます。無念さを押し殺し、「僕がいないくらいで簡単に負けてしまうチームではありません」と気丈に話し



応援席では控え選手や保護者が声をからします。



キャッチャーの大森君はピンチのたびにマウンドへ。



山下君の豪快なスイングと、三塁コーチボックスで見守る水守君

# 甲子園出場

## ベスト16進出

# おめでとう

あこがれの甲子園まで、あとアウ  
ト3つ、点差は2点。迎えた最終回  
は、一打同点のピンチ。折るように  
ベンチから見つめる二人。  
「こうして最後は負けてしまうの  
かな、と。」一刻も早く(優勝を決  
めて)マウンドに駆け寄りたかった  
ですね。」

「天王山」の瞬間を振り返るのは、  
鳥羽高校から見事甲子園に出場した  
有馬悠河君と野々村君。有馬君は  
投手陣のリーダーで、記録員として  
甲子園でもベンチ入り。野々村君は、  
3塁コーチとしてチームを支えまし  
た。

「スタンドの応援がよく聞こえて、  
また、全校生徒や京都二中のOBの  
皆さんも大勢応援に来てくれて、あ  
りがたかったです。」そろって、感  
謝の言葉を口にします。  
中でも両親に対しては特別の思い  
があるそうで、鳥羽高校では携帯電  
話持ち込み禁止の甲子園期間中、宿  
舎から、感謝の気持ちを込めて手紙  
を書きました。



(左) 甲子園の土。「グラウンドは結構硬くて、エ  
ースのスパイクの歯が欠けたほど。芝生はふかふ  
かでした」  
(右) 京都大会の優勝メダル



山本町長をはさんで、有馬君(左)と、野々村君(右)。  
2人は約50分かけて、電車で一緒に通学。「野球のことや、いろんなことを話しています」

「よく叱られましたけど、日ごろか  
ら信頼を積み重ねることが  
できたからこそ、ベン  
チ入りに選んでもらえた  
のだと思います。」(有馬  
君)、「自分に合う仕事で  
チームを支えることがで  
きました。」(野々村君)  
と話す二人にとって、甲  
子園は小さいころからの  
夢。「最初は実感がわか  
きませんでしたけど、試合前  
に甲子園のグラウンドに  
立った瞬間、冷静でいら  
れなくなるくらい、感激  
しました。」(野々村君)  
「グラウンドに立つと、  
腰の高さからスタンドが  
広がっていて、とても大  
きい。『聖地』に来たん

だなど実感しました。」(有馬君)  
鳥羽高校では、個々の力でなく、  
組織として、そして「人間力」を鍛  
えて戦うよう指導されてきたとい  
う二人。  
「スタンドの応援がよく聞こえて、  
また、全校生徒や京都二中のOBの  
皆さんも大勢応援に来てくれて、あ  
りがたかったです。」そろって、感  
謝の言葉を口にします。  
中でも両親に対しては特別の思い  
があるそうで、鳥羽高校では携帯電  
話持ち込み禁止の甲子園期間中、宿  
舎から、感謝の気持ちを込めて手紙  
を書きました。

「試合後のアルプススタンドへの  
あいさつで姿を探したんですが、見  
つけられませんでした。全然違うと  
ころを探していたみたいですね。」  
これから甲子園を目指す後輩に  
は、「自分のやるべきことをしっか  
り意識して、みんなと力を合わせて  
頑張ってください。」(野々村君)  
「全国を見ると、上には上がいま  
す。自分を過信せず、与えられた役  
割に不満を抱かずに、コツコツと継  
続していくことが大切だと思います。」

大山崎町は「天王山」に挑む皆さん  
を応援します。  
皆さんの「天王山」のエピソードを  
教えてください。誌面で紹介します。  
問：政策総務課企画観光係  
☎ 956-2101 (内380)



## 天王山のぼる君の 「大山崎町の歴史を 学習するぞ！」

### 禁門の変と 十七烈士の墓 編



天王山のぼる君  
(14)  
淀川散歩さん  
(63)



天王山のぼる君  
(14)



淀川さん、今年の大河ドラマ「花燃  
ゆ」は見る？ 吉田松陰の妹・文の  
話だけ面白いね。



ドラマの主人公、文は、久坂玄瑞の  
妻でもあるね。久坂玄瑞は、幕末の長  
州藩の人で「禁門の変」という戦で敗  
れてしまうんだ。別名「蛤御門の変」とも呼ば  
れるこの事件は知っているかな？



こないだ僕、蛤のお吸い物をひつく  
り返しちゃって。この、我が家の「蛤  
事件」のことかな。



そんな訳ないでしょう、のぼる君。  
幕末に、アメリカの黒船がやってき  
たことは知っているよね。鎖国してい  
た幕府は開国をせまられて、結局、欧米の5カ  
国と不平等な条約を結ぶことになったんだ。  
それを機に、日本が植民地化される危機を感  
じて、「外国人を追い出して江戸幕府を倒そう」  
という「尊王攘夷」という考えを持った人たち  
と、「開国して江戸幕府を守ろう」という考え  
を持った人たちによって、国論が二分されるこ  
とになるんだ。その流れから起こった事件だよ。



どちらの考えが理にかなっていたの  
かな…。



禁門の変の前年には、会津・薩摩藩  
の親幕派の人がクーデターを起こし  
て、京都から尊王攘夷の思想を持った  
貴族と長州藩の人を追い出したんだ。  
その長州藩がもう一度京都で勢力を回復する  
ために、1864年(元治元年)に蜂起した戦  
が、禁門の変だよ。



たしか、長州勢が京都を攻めるため  
にやってきた時には、大山崎に滞在し  
ていたんだよね。



い、意外と詳しいね、のぼる君。  
久坂玄瑞も真木保臣という人とと  
もに多くの兵を連れて、離宮八幡宮な  
どに陣を敷いていたんだよ。



たいへんな災難だったんだね。



いま、天王山中腹には十七烈士の墓  
が建っていて、毎年10月21日には、招  
魂祭が開かれているよ(実際に自刃し  
た日は7月21日ですが、近年は気候の良い秋に  
行なわれています)。



今度、お墓にいったらみようよ。ぼく、  
天王山登山は得意だからね。